

何のための「探究」なのか？ ～「自由」と「自由の相互承認」の実現に向けて～

苫野一徳（熊本大学）



哲学とは・・・

本質洞察に基づく
原理の提示





教育とは何か？
それはどうあれば「よい」と言いうるか？
そのような教育はいかに可能か？



多くの学校とご一緒にして確信が強まったこと

「よい学校」には、（ほぼ例外なく）
「対話の文化／仕組み」がある。

→「よい学校」とは？

→「対話の文化」をどう作る？

今日のお話の内容

- 対話からはじめる学校づくり
- そもそも学校は何のためにある？
- 何のための「探究」なのか？

今日のお話の内容

- 対話からはじめる学校づくり
- そもそも学校は何のためにある？
- 何のための「探究」なのか？

対話のない学校の問題

- 教育観（学校観、子ども観、授業観）の対立、バラバラ感
- 声の大きな人の意見が通りやすくなる
- 上から降りてくる（自分ごとにならない）学校目標
- 空気を読み合う自縄自縛（おかしいこともおかしいと言えなくなる）
・ ・ ・ etc.

→学校教育の本質（目的）が合意されていないため、チームとしての協働が困難になったり、非本質的な実践が跋扈してしまう。

1 に対話、 2 に対話、 3、 4 がなくて 5 に対話



- 「そもそも何のための学校か」に常に立ち返る

→後述

- その上で、何につけても「対話を通した最上位目標の合意」から始める

→授業のあり方、行事、ルール、etc.

- その目標を達成するための方法を、さらに対話を通して考え合い合意する

校内研修を対話ベースに（福岡県古賀市立小野小学校）



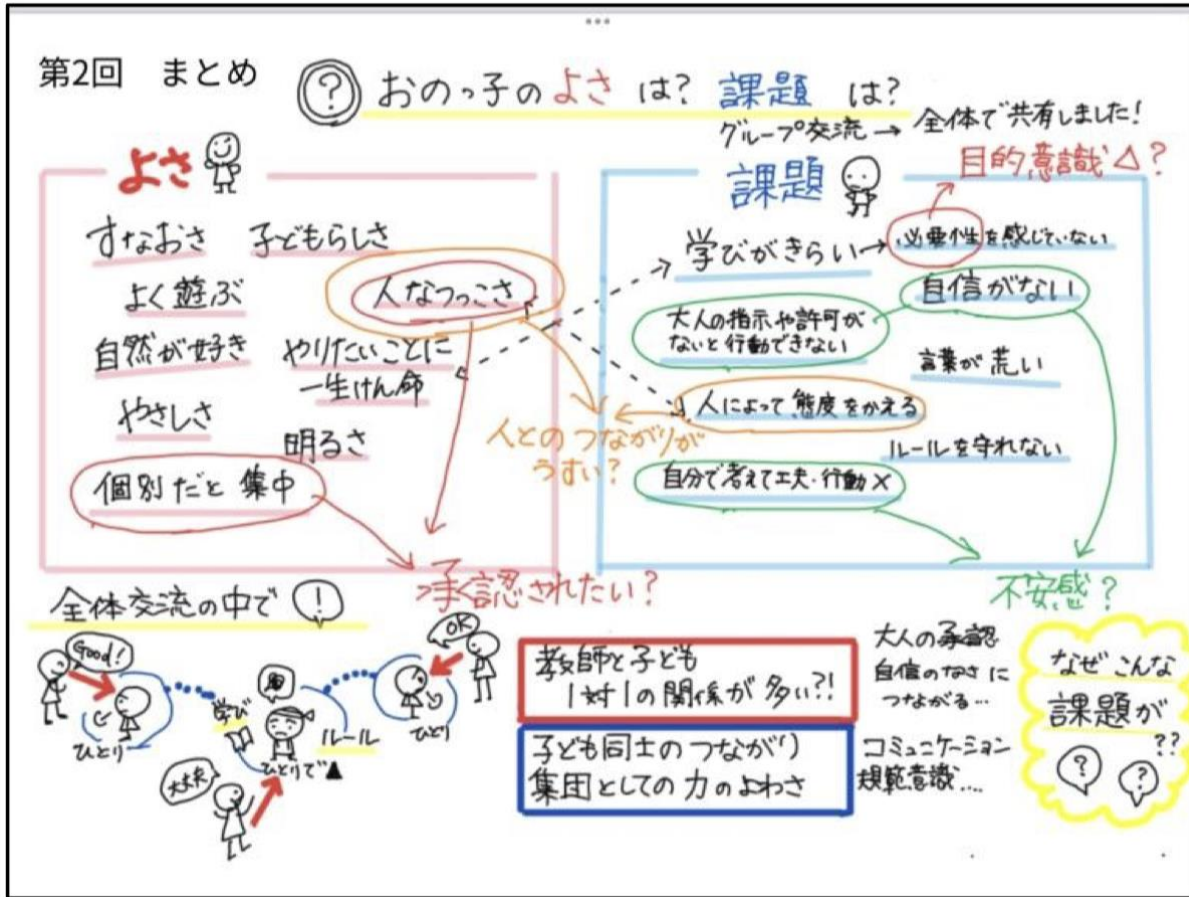
- 研修部が実践のあり方を決めてみんなに下ろしていく研修（仮説検証型）から、対話を通して合意した目標に向けて、それぞれがチャレンジし、それを持ち寄り、さらに対話を重ねていく研修（仮説生成型）に
- これまでの協議会をやめて、グループ対話を研修形態の基本に

まずはお互いを知る

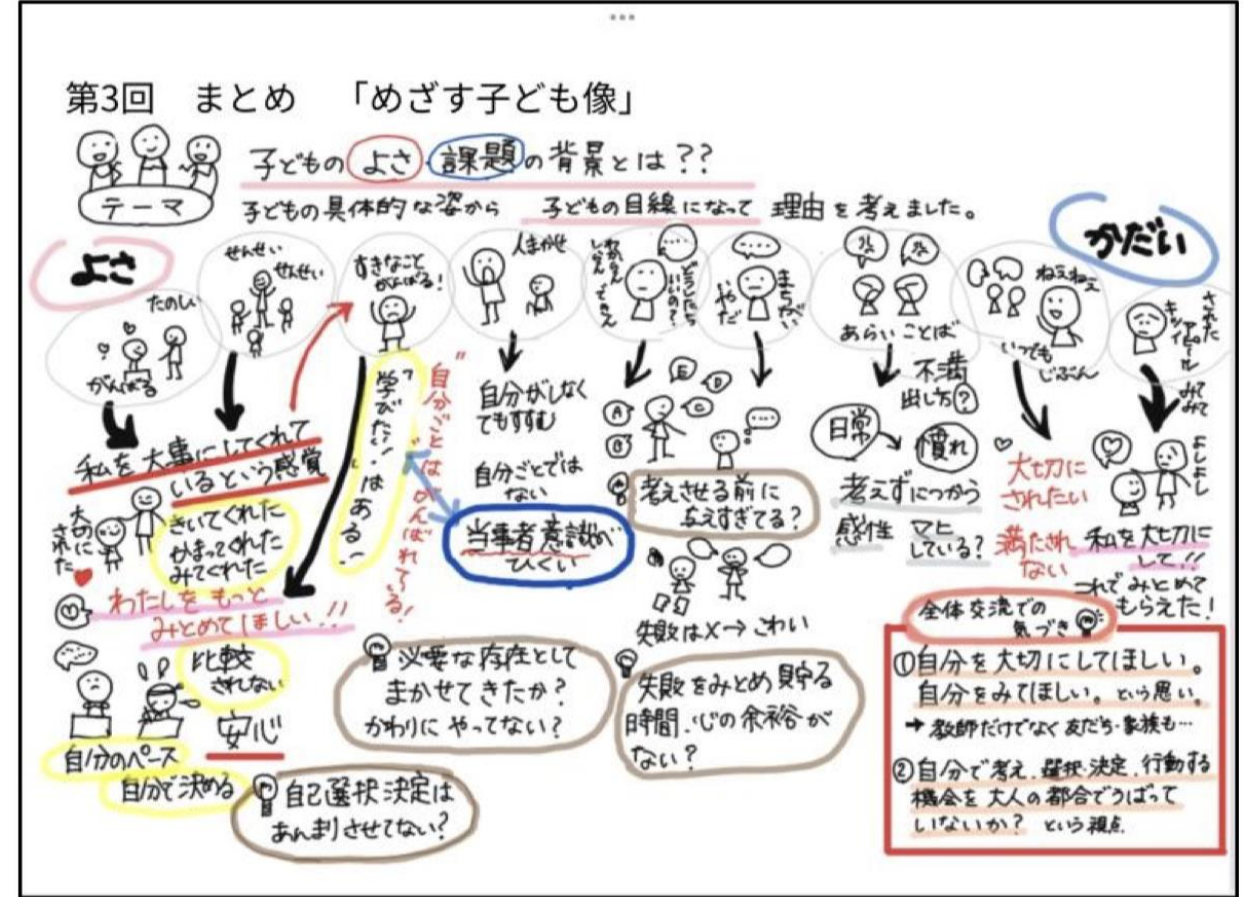


- 教師を目指した理由は？
- 青臭い話を通して、お互いの根っこを知り合う

最上位の目標を見出し合い、合意する

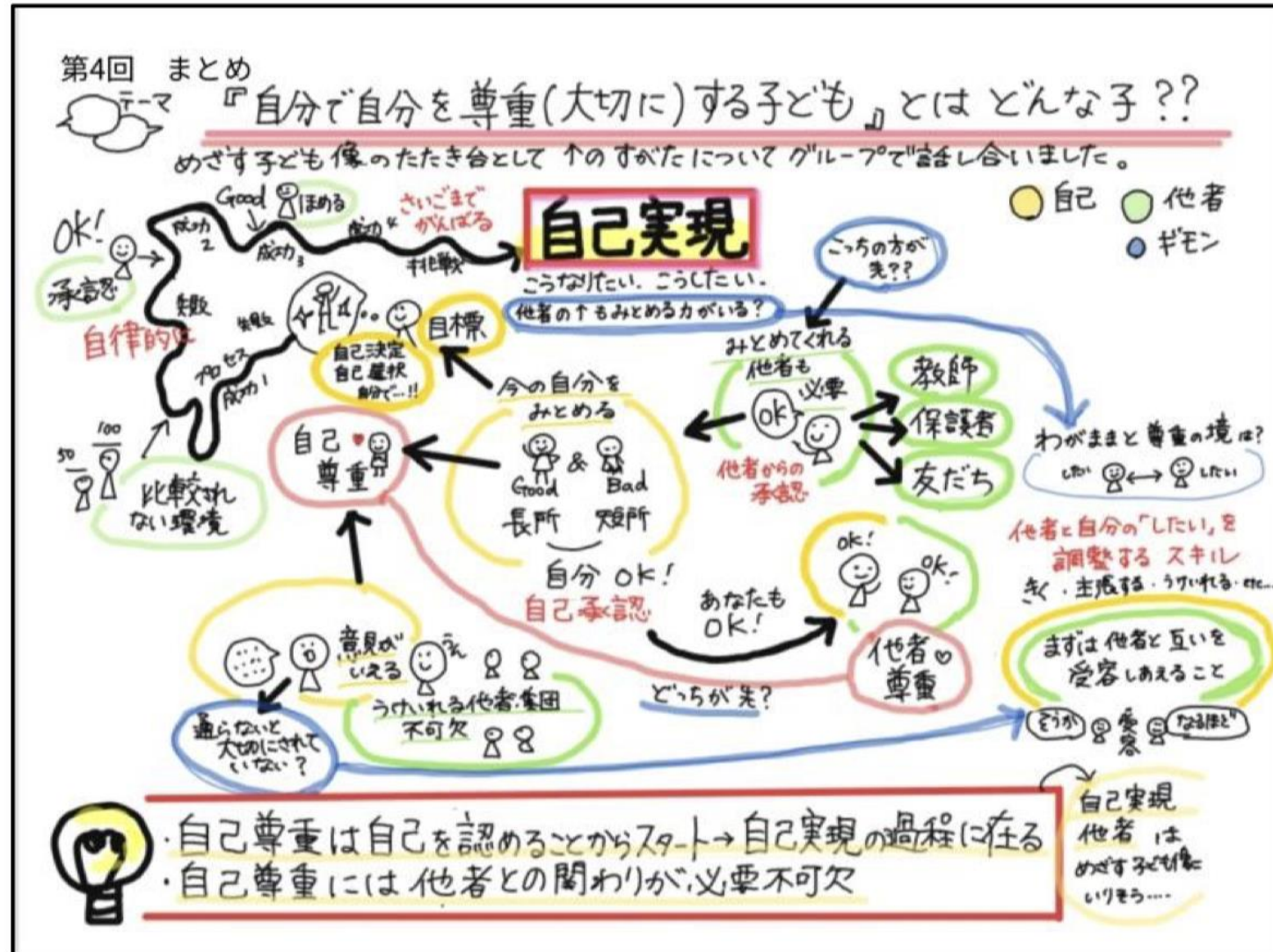


子どもの事実をベースにしながら対話

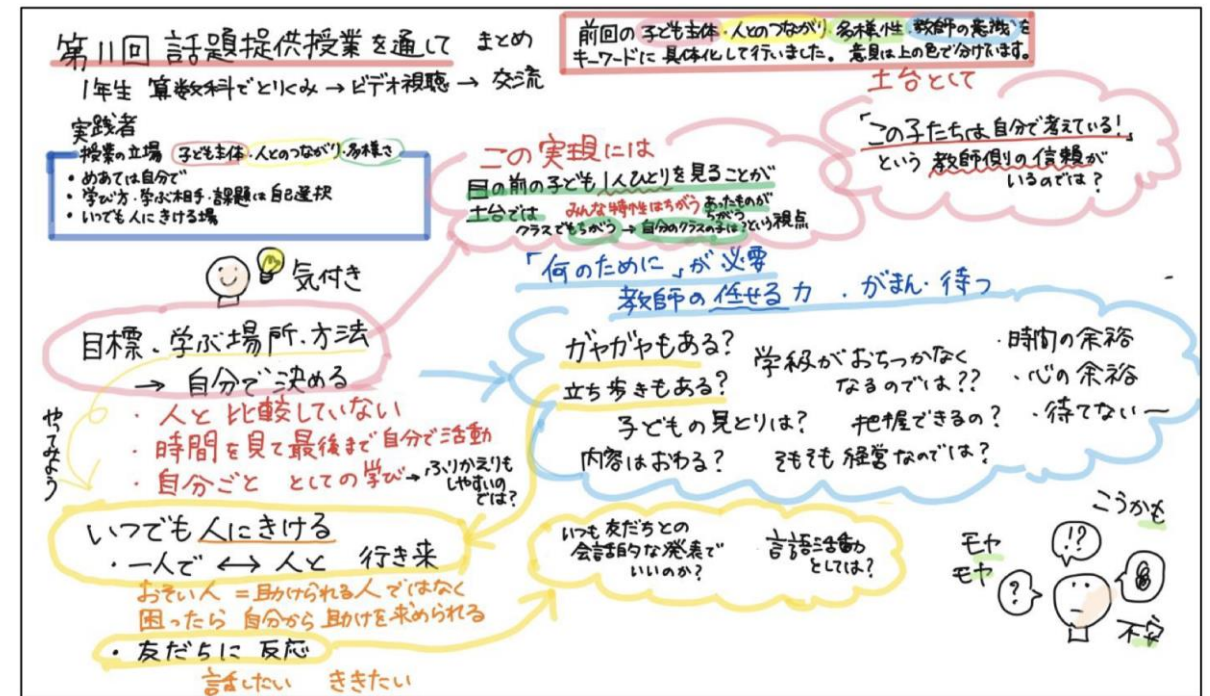
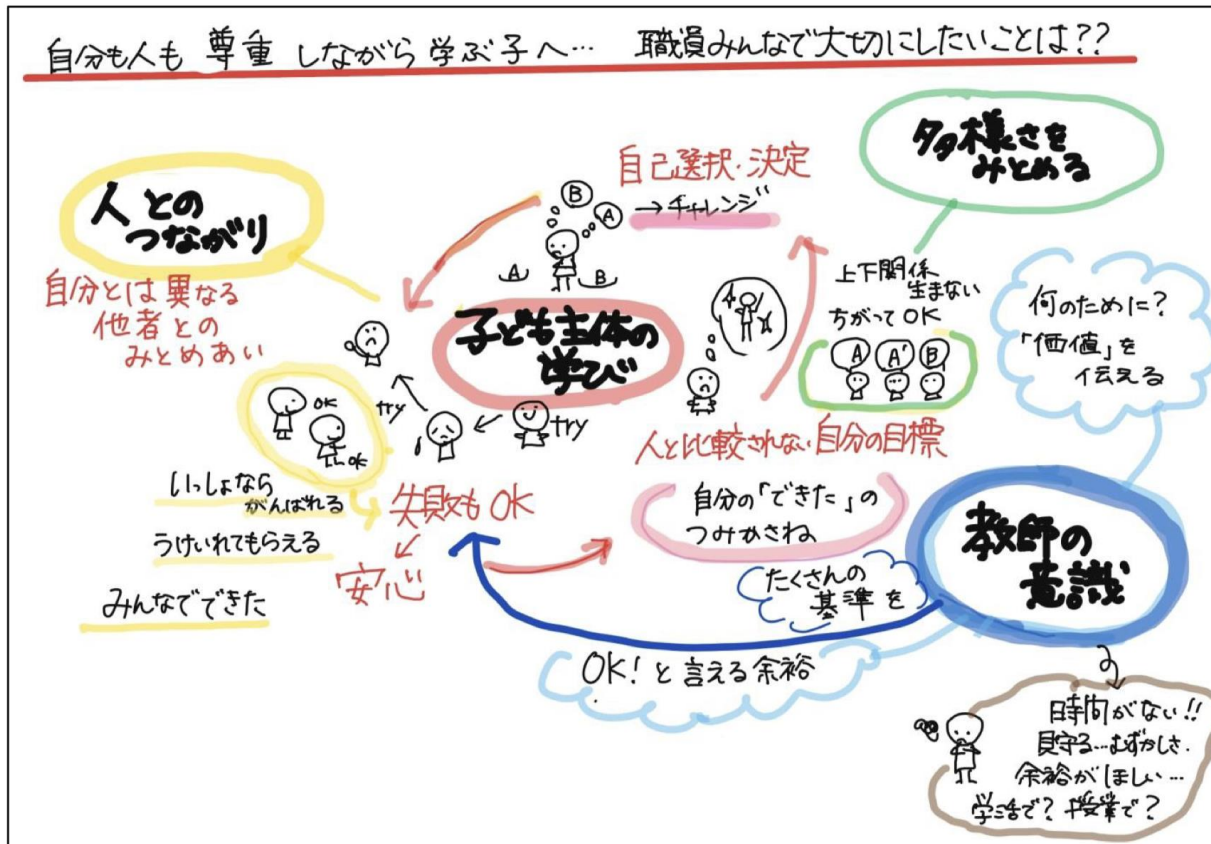


自分も人も尊重しながら学ぶ子どもたちを
育みたい！

本質観取：「自分を尊重（大切に）する」とは？



じゃあどんな実践ができるだろう？



- 個々の課題に合わせた実践
- それらを持ち寄り、対話
- つねに最上位の目標（大事にしたいこと）に立ち戻りながら

見えてきたこと

- 担任、担任外、ではなく、みんなで学校を作っていく意識（授業以外の行事などでも）が出てきた人も
- 子どもを主語にした対話が増えた
- 子どもたちの対話の場づくりが上手になった
- 新たなチャレンジを語り合ったり応援し合ったりする先生の姿も
→「学びの個別化・協同化・プロジェクト化の融合」など
- 対話なくして断捨離（働き方改革）なし

今日のお話の内容

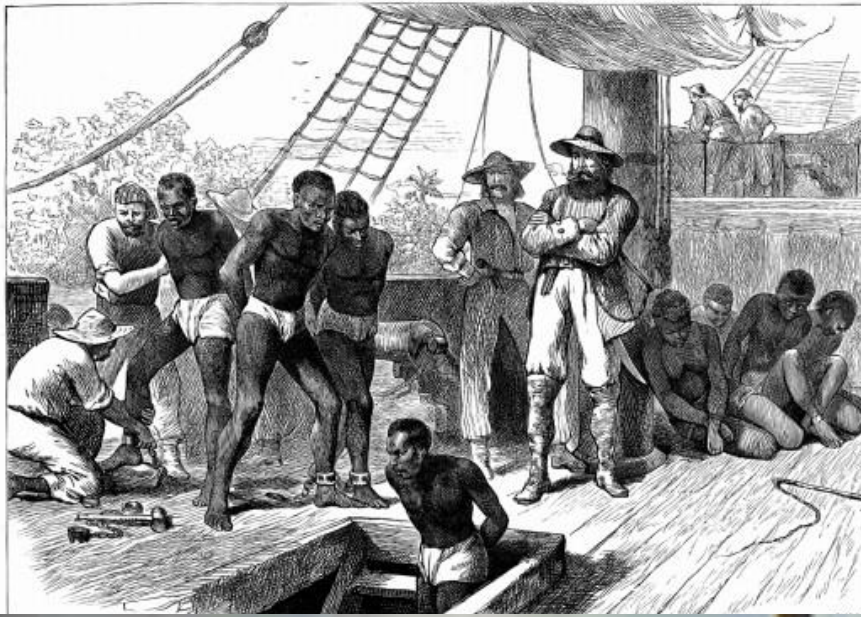
- 対話からはじめる学校づくり
- **そもそも学校は何のためにある？**
- 何のための「探究」なのか？

**公教育は、人類1万年の戦争のはてに
見出された革命的発明である！**

戦争の激減 (cf. スティーブン・ピンカー 『暴力の人類史』)









G.W.F.ヘーゲル
(1770~1831)

民主主義の根本原理は・・・

「自由の相互承認」

- まずはお互いを対等に「自由」な存在として認め合うことをルールとした社会
- 他者の自由を侵害しない限り、お互いが自由に生きることを認め合う

そもそも公教育は何のためにあるのか？

**すべての子どもに、
「自由の相互承認」の感度を育むことを土台に、
「自由」に生きるための力を育む！**

→他者の自由を承認・尊重できる「自由な市民」を育てる

→そのことで民主主義社会をいっそう成熟させる

→教育の構想や実践については、つねにこの本質論を土台に考える！

ところが・・・

- 不登校
 - いじめ
 - 体罰
 - 小1プロブレム（と間違っって呼ばれている現象）
 - 落ちこぼれ・吹きこぼれ
 - 同調圧力
 - 空気を読み合う人間関係
 - 理不尽な校則
- ・・・etc.

150年間変わらない学校システム

みんなで同じことを、
同じペースで、
同じようなやり方で、
同質性の高い
学年学級制の中で、
出来合いの答えを
勉強する、
ベルトコンベヤー型の
システム



- 落ちこぼれ・吹きこぼれ問題
- いじめ、不登校、空気を読みあう人間関係の問題
- 学びの意義がわからない・学びからの逃走



100年前の尋常小学校の復元
(トリップアドバイザーより)

「学びの構造転換」そして 「公教育の構造転換」へ！



- * 学びの個別化・協同化・プロジェクト化の融合
- * 自分たちの学校は自分たちでつくる（市民社会の土台）
- * 多様性がもっとごちゃまぜのラーニングセンターへ

「学びの構造転換」そして 「公教育の構造転換」へ！



- * 学びの個別化・協同化・プロジェクト化の融合
- * 自分たちの学校は自分たちでつくる（市民社会の土台）
- * 多様性がもっとごちゃまぜのラーニングセンターへ

福島県大熊町立 学び舎 ゆめの森



- 1 階：幼保・義務教育学校
- 2階：義務教育学校・大学サテライト・教員研修ゾーン

福島県大熊町立 学び舎 ゆめの森



今日のお話の内容

- 対話からはじめる学校づくり
- そもそも学校は何のためにある？
- **何のための「探究」なのか？**

「学びの構造転換」そして 「公教育の構造転換」へ！



- * 学びの個別化・協同化・プロジェクト化の融合
- * 自分たちの学校は自分たちでつくる（市民社会の土台）
- * 多様性がもっとごちゃまぜのラーニングセンターへ

探究

をカリキュラムの中核に

自分たちなりの問いを立て、
自分たちなりの仕方で、
自分たちなりの答えにたどり着く
「探究型の学び」

「答えを持っている教師」から、
「共同探究者」「探究支援者」「ジェネレーター」としての教師へ

なぜ「探究」なのか？

予測不能な時代？VUCAの時代？グローバル人材の育成？

→より本質的なのは・・・

**民主主義（自由と自由の相互承認）
の成熟のため！**

「探究」は民主主義の大前提



ジョン・デューイ
(1859～1952)

民主主義の命は「**自由な関心・探究**」と「**自由なコミュニケーション**」にある。決められた時間割に、決められたことを、黙って座って一方的に学ばされる教育は、専制主義の教育である。（『民主主義と教育』より意識）

→授業だけでなく、学校生活のすべてにおいて「自由な探究」と「自由なコミュニケーション」（自己選択・自己決定の機会）を保障する。

→「自由な探究」と「自由なコミュニケーション」は相互承認の土壌になる。

→改めて、学校はこの民主主義社会の最も重要な土台！

補足的知見



- 「やらされる勉強」「点数評価される勉強」は、できるだけ省エネしていい点数を取るマインドを生み出し、**主体的で深い学びへ向かうマインドを失わせてしまう**

(アルフィ・コーン『報酬主義をこえて』)

- 認知科学の知見によると、**テストのために覚えたことの90%は忘れられてしまう**

(リンダ・ハモンド スタンフォード大学教授)



- 経済学的には、学校教育は人的資本論20%、**シグナリング理論80%で説明できる。学習の転移もほぼ起こらない。**

(ブライアン・カプラン『大学なんか行っても意味はない?』)

名古屋市立山吹小学校での実践（個別化・協同化の融合）

具体的な事例

- 広島県教育委員会HP＞個別最適な学び担当＞全ての子どもたちの「主体的な学び」の実現に向けて

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku17/kobetu-teian.html>

- 名古屋スクールイノベーションプロジェクト

<https://nagoyaschoolinnovation.city.nagoya.jp>

- チャイムなし！時間割なし！伊那小学校（全3回）

<https://youtu.be/k7XCjlob-rl>

- 講談社コクリコ：「学びの個別化・協同化・プロジェクト化」を実践する
熊本市立弓削小学校教諭の実践（全4回）

<https://cocreco.kodansha.co.jp/cocreco/general/study/fAWu7>

- 東洋経済オンライン：算数嫌い克服、平均点も上げた脱一斉授業の全貌～
誰一人取り残さない「学びの個別化・協同化」

<https://toyokeizai.net/articles/-/466281>